

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

6月号

平成25年(2013).6.4



ただ ひたむきに～運動会から～

校長 市川幸男

6月1日、絶好の運動会日和の中、子どもたちのはつらつとした躍動感溢れる姿が運動場いっぱいに広がりました。

本番に向けて一生懸命練習に取り組み、また準備を進めてきた子どもたち。徒競走や団体競技、学年の演技など、最後まであきらめることなく全力でがんばる姿が随所に見られ、素晴らしい運動会となりました。応援団、プロジェクト委員、各係の人たちの活躍ぶりも見事でした。

1年生は入学して2か月足らずではありましたが、生き生きと楽しげに演技の発表ができました。2年生から5年生も、真剣に、そして、楽しさあふれる演技を披露するなど、進級して間もない中で逞しく成長している姿を見せてくれました。6年生には最後の運動会でしたが、演技はもとより準備や当日のリード役として素晴らしい活躍をしました。運動会の成功は、小学校生活のよい思い出の一つになったことと思います。

当日はご多用な中、本校にご来校頂きました来賓の皆様、地域の皆様、そして保護者の皆様、朝早くから最後まで温かい声援を送っていただき、まことにありがとうございました。また、会場整理やパトロールなど様々なお力添えをいただいたボランティアの皆様、さらには、後片付け等に進んでご協力いただいた、たくさんの保護者の方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、運動会での子どもたちが頑張る姿を見ていて、あらためてその姿を美しいと感じました。特に、ピラミッドや塔の土台となった子どもが、歯を食いしばって支える姿や、仲間のがんばりに応えるべく、塔の頂上に登り、高さと不安定さの恐怖を必死でこらえ、胸を張る姿、あるいは、ただまっすぐゴールを見つめ、懸命に腕を振り駆け抜ける姿など、何か見ている大人の胸を打ち、感動をわき起こさせてくれるものがあります。それは、子どもが何の損得や利害もなく、ただより良い演技を、また、チームの勝利を目指しひたむきになる姿、つまり純粹さによるところが大きいのではないのでしょうか。ともすると私たち大人は、世間の常識という固定の観念にとらわれたり、〇〇したらどうしようといった先走りの心配をしたりして、物事の本質を見誤ってしまうことが時としてございます。もちろん、そういった躊躇は、大人として誤りのない選択をするための正しい行為であることが多いのです。しかし運動会で子どもたちが示してくれた姿も、大切にすべき姿なのかなともあらためて感じました。振り返って学校を見てみると、私たち小学校が今大事にすべきことは、「学校に学ぶ全ての子を、一人の人間として、社会と協調し、より良い生活を送ることのできる基礎的な力を育成する。」ことに、ただひたすら向き合うことではないのでしょうか。学校には、学校目標・本年度の重点目標・学級目標等々、小学校教育が目指す姿を、地域性などを考慮し具体化した目標がございます。「ただ子ども達の幸せのために」を合い言葉として、その実現に教員としての誇りをもって日々取り組んでいくことこそ、今私たちが失ってはいけない大切な姿勢なのだあらためて実感しました